

## 安全データシート

## 二硫化炭素

改訂日: 2024-05-09 版番号: 1

## 1. 化学品及び会社情報

## 製品識別子

製品名	: 二硫化炭素
CB番号	: CB6279761
CAS	: 75-15-0
EINECS番号	: 200-843-6
同義語	: 二硫化炭素

## 物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: ビスコースレーヨン・セロハン溶剤、殺虫剤・医薬原料、ゴム加硫促進剤、浮遊選鉱剤（ザンセー ト）、重金属捕捉剤、溶剤（ビスコース繊維、セロハン）、ゴム加硫促進剤、農薬・医薬品の合成原料
推奨されない用途	: なし

## 会社ID

会社名	: Chemicalbook
住所	: 北京市海淀区上地十街匯煌國際1号棟
電話	: 010-86108875

## 2. 危険有害性の要約

## 2.1 GHS分類

このセクションで言及された H-ステートメントの全文は、セクション 16 を参照する。

水生環境有害性 短期（急性）(区分2), H401

特定標的臓器毒性（反復ばく露）(区分1), 末梢神経系, 中枢神経系, 心臓血管系, 眼, H372

生殖毒性(区分2), H361

眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性(区分2A), H319

皮膚腐食性 / 刺激性(区分2), H315

急性毒性, 吸入(区分4), H332

引火性液体(区分2), H225

## 2.2 注意書きも含むGHSラベル要素

## 絵表示

GHS02	GHS07	GHS08

## 注意喚起語

危険

## 危険有害性情報

H372 長期にわたる、又は反復暴露による臓器(末梢神経系、中枢神経系、心臓血管系、眼)の障害。

H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。

H332 吸入すると有害。

H319 強い眼刺激。

H315 皮膚刺激。

H225 引火性の高い液体及び蒸気。

H401 水生物に毒性。

## 注意書き

### 安全対策

P280 保護手袋 / 保護衣 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。

P240 容器を接地しアースをとること。

P233 容器を密閉しておくこと。

P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

P201 使用前に取扱説明書を入手すること。

P273 環境への放出を避けること。

P271 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

P260 粉じん / 煙 / ガス / ミスト / 蒸気 / スプレーを吸入しないこと。

P243 静電気放電に対する措置を講ずること。

P242 火花を発生させない工具を使用すること。

P241 防爆型の【電気機器 / 換気装置 / 照明機器 / 機器】を使用すること。

### 応急措置

P337 + P313 眼の刺激が続く場合：医師の診察 / 手当てを受けること。

P332 + P313 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察 / 手当てを受けること。

P308 + P313 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察 / 手当てを受けること。

P305 + P351 + P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P304 + P340 + P312 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。

P303 + P361 + P353 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水【又はシャワー】で洗うこと。

### 保管

P405 施錠して保管すること。

P403 + P235 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

### 廃棄

P501 内容物 / 容器を承認された処理施設に廃棄すること。

## 2.3 他の危険有害性

なし

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の區別	: 化学物質
化学特性(示性式、構造式等)	: CS <sub>2</sub>
分子量	: 76.14 g/mol
CAS番号	: 75-15-0
EC番号	: 200-843-6
化審法官報公示番号	: 1-172
安衛法官報公示番号	: -

---

### 4. 応急措置

#### 4.1 必要な応急手当

##### 一般的アドバイス

この安全データシートを担当医に見せる。

##### 吸入した場合

吸入後は新鮮な空気を吸うこと。 ただちに医師の診察を受けること。 呼吸停止時はただちに人工呼吸を実施し、必要に応じて酸素も吸入する。

##### 皮膚に付着した場合

皮膚に接触した場合: すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。 皮膚を流水/シャワーで洗うこと。 医師に相談する。

##### 眼に入った場合

眼に触れた後は多量の水ですすぐこと。 眼科医の診察を受けること。 コンタクトレンズをはずす。

##### 飲み込んだ場合

飲み込んだ後はただちに水を饮ませること(多くても2杯) 医師に相談する。

#### 4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

#### 4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

---

### 5. 火災時の措置

#### 5.1 消火剤

##### 使ってはならない消火剤

本物質/混合物に対する消火剤の制限なし

##### 適切な消火剤

水 泡 二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) 粉末

#### 5.2 特有の危険有害性

火災時に有害な燃焼ガスや蒸気を生じるおそれあり。

周囲温度で空気と反応して爆発性混合物を生じる。

蒸気は空気より重く、床に沿って広がることがある。

逆火に注意する。

可燃性。

発性混合物を形成することがある。, 加熱すると爆発する可能性がある。

かなりの距離にわたり逆火が考えられる。, 火災時に容器爆発をおこす可能性がある。, 蒸気は空気と爆

硫黄酸化物

炭素酸化物

### 5.3 消防士へのアドバイス

自給式呼吸器がある場合のみ危険区域に留まってもよい。安全なゾーンまで離れるか適切な保護衣を着用して、皮膚に触れないようにすること。

### 5.4 詳細情報

容器を危険ゾーンから移動させて水で冷やすこと。ガス / 蒸気 / ミストを水スプレージェットで抑える（除去する）。消火水が、地上水または地下水のシステムを汚染しないようにする。

---

## 6. 漏出時の措置

### 6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

救急隊員以外への助言: 蒸気、エアゾールを吸入してはならない。触れないようにすること。十分な換気を確保する。熱や発火源から遠ざける。危険なエリアから避難し、緊急時手順に従い、専門家に相談のこと個人保護については項目8を参照する。

### 6.2 環境に対する注意事項

物質が排水施設に流れ込まないようにする。爆発のおそれ。

### 6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

排水溝に蓋をすること。こぼれたら集めて結合させ、ポンプですくい取る。物質の制限があれば順守のこと(セクション7、10参照)液体吸収剤(例: Chemisorb®)で処置すること。正しく廃棄すること。関係エリアを清掃のこと。

### 6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 7.1 安全な取扱いのための予防措置

#### 安全取扱注意事项

換気フードの下で作業すること。吸い込まないこと。蒸気やエアロゾルが生じないようにすること。

#### 火災及び爆発の予防

炎、熱および発火源から遠ざける。静電気放電に対する予防措置を講ずること。

#### 衛生対策

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。注意事項は項目2.2を参照。

### 7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

## 保管クラス

保管クラス (ドイツ) (TRGS 510): 3: 可燃性液体

## 保管条件

容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。熱や発火源から遠ざける。鍵をかけておくか、資格のあるまたは認可された人のみが出入りできる場所に入れておく。冷蔵保存後に開ける。

## 7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 8.1 管理濃度

コンポーネント別作業環境測定バラメータ

ACL: 1 ppm - 作業環境評価基準、健康障害防止指

TWA: 1 ppm - 米国。ACGIH限界閾値 (TLV)

### 8.2 曝露防止

#### 適切な技術的管理

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。

#### 保護具

眼 / 顔面の保護

NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の

保護具を使用する。保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具

本推奨は、当社発行の安全データシートに記載されている製品およびその指定の使用法のみに適用される。溶解、他の物質との混合、およびEN374に記載の逸脱条件での使用については、

CE認証手袋のサプライヤに問い合わせのこと(例. KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, Internet:

[www.kcl.de](http://www.kcl.de))

フルコンタクト

材質: バイトン®

最小厚: 0.7 mm

破過時間: 480 min

試験物質: Vitoject? (KCL 890 / Aldrich Z677698, Size M)

本推奨は、当社発行の安全データシートに記載されている製品およびその指定の使用法のみに

適用される。溶解、他の物質との混合、およびEN374に記載の逸脱条件での使用については、

CE認証手袋のサプライヤに問い合わせのこと(例. KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, Internet:

[www.kcl.de](http://www.kcl.de))

飛沫への接触

材質: ブチルゴム

最小厚: 0.7 mm

破過時間: 30 min

試験物質: Butoject® (KCL 898)

## 身体の保護

難燃静電気保護服。

## 呼吸用保護具

気化ガス/エアロゾル発生時に必要 次の規格に準拠しているフィルター式呼吸器保護具を推奨します。DIN EN 143、DIN 14387および使用済み呼吸器保護システムに関連する他の付属規格。

## 環境暴露の制御

物質が排水施設に流れ込まないようにする。爆発のおそれ。

## 9. 物理的及び化学的性質

### Information on basic physicochemical properties

外観	形状: 透明, 液体色: 無色
臭い	無臭
臭いのしきい(閾)値	非該当
pH	データなし
融点 / 凝固点	融点: -111.5 °C 凝固点: < -76 °C - OECD 試験ガイドライン 102
沸点, 初留点及び沸騰範囲	42.2 °C at 997 - 998 hPa - OECD 試験ガイドライン 103
引火点	-30 °C - c.c.
蒸発速度	データなし
可燃性 (固体、気体)	データなし
引火上限/下限または爆	爆発範囲の上限: 60 %(V)
発限界	爆発範囲の下限: 1 %(V)
蒸気圧	274 hPa at 25 °C - OECD 試験ガイドライン 104
蒸気密度	データなし
密度	1.26 gPcm <sup>3</sup> at 20 °C
比重	データなし
水溶性	2.9 grm/l at 20 °C - OECD 試験ガイドライン 105- 可溶
n-オクタノール / 水分	log Pow: 2.7 at 25 °C - OECD 試験ガイドライン 117 - 生物濃縮は予測
配係数 (log 値)	されない。
自然発火温度	データなし
分解温度	415 °C, 89.7 KJ/mol -
粘度	動粘度 (動粘性率) : データなし 粘度(粘性率): データなし
爆発特性	データなし
酸化特性	なし
表面張力	71.9 mN/m at 1g/l at 19.5 °C - OECD 試験ガイドライン 115

### 9.2 その他の安全情報

#### 表面張力

71.9 mN/m at 1g/l at 19.5 °C

- OECD 試験ガイドライン 115

## 10. 安定性及び反応性

### 10.1 反応性

蒸気は空気と爆発性混合物を形成することがある。

### 10.2 化学的安定性

標準的な大気条件(室温)で化学的に安定。

### 10.3 危険有害反応可能性

二酸化窒素

硫黄

リン

フッ素

次との反応で燃焼ガスや蒸気の発火または生成のおそれ

アジド

ナトリウム

リチウム

過マンガン酸カリウム

カリウム

酸化塩素

アルミニウム粉末

ヒドラジン

塩素

酸化鉄

鉄

ハロゲン酸化物

ハロゲン-ハロゲン化合物

酸化剤

過マンガン酸

酸化窒素

次との反応で爆発のおそれ

酸類

亜鉛

次により発熱反応を生じる

還元剤

金属粉体

活性炭

### 10.4 避けるべき条件

警告

### 10.5 混触危険物質

ゴム, 多様なプラスチック

## 10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

---

# 11. 有害性情報

## 11.1 毒性情報

### 急性毒性

経皮: データなし

(OECD 試験ガイドライン 403)

LC50 吸入 - ラット - オスおよびメス - 4 h - 10.35 mg/l

(OECD 試験ガイドライン 423)

LD50 経口 - ラット - メス - > 2,000 mg/kg

### 皮膚腐食性 / 刺激性

(IUCLID)

備考: (規則 (EC) No 1272/2008, Annex VI)

結果: 重度の炎症

皮膚 - ウサギ

### 眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性

(IUCLID)

備考: (規則 (EC) No 1272/2008, Annex VI)

結果: 重度の炎症

眼 - ヒト

### 呼吸器感作性又は皮膚感作性

(OECD 試験ガイドライン 429)

結果: 陰性

局所リンパ節増殖試験 (LLNA) - マウス

### 生殖細胞変異原性

細胞型: Red blood cells (erythrocytes)

結果: 陰性

方法: OECD 試験ガイドライン 474

投与経路: 吸入(蒸気)

種: マウス

試験タイプ: 小核試験

結果: 陰性

方法: OECD 試験ガイドライン 476

代謝活性化: 代謝活性化の存在または不存在

テストシステム: マウスリンパ腫細胞

試験タイプ: *in vitro* 哺乳動物細胞遺伝子変異試験

### 発がん性

データなし

### 生殖毒性

備考: (EU) 1272/2008 規則, Annex VI (Table 3.1/3.2)に基づく分類

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害。 - 末梢神経系, 中枢神経系, 心臓血管系, 眼

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

データなし

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

胎児への悪影響のおそれの疑い。 生殖能への悪影響のおそれの疑い。

誤えん有害性

データなし

## 11.2 追加情報

RTECS: FF6650000

本品は特に慎重に取り扱うこと。

腎臓

肝臓

傷害される部位

心不全

血球数変化

精神病

胃腸疾患

潜伏期間後

筋肉の症状

倦怠感

長期曝露後

血圧低下

チアノーゼ

昏睡状態

意識消失

興奮、けいれん

酩酊

大量に摂取後

化学的、物理的および毒性学的性質の研究は不十分と考えられる。

痙攣を起こす可能性がある。

## 12. 環境影響情報

### 12.1 生態毒性

魚毒性

半静止試験 LC50 - *Danio rerio* (ゼブラフィッシュ) - 3 mg/l - 96 h

(OECD 試験ガイドライン 203)

ミジンコ等の水生無脊

EC50 - *Daphnia magna* (オオミジンコ) - 2.1 mg/l - 48 h

椎動物に対する毒性

(OECD 試験ガイドライン 202)

藻類に対する毒性

止水式試験 EC50 - Chlorella pyrenoidosa - 21 mg/l - 96 h

(OECD 試験ガイドライン 201)

#### 微生物毒性

止水式試験 EC50 - バクテリア - 13 mg/l - 24 h

備考: (ECHA)

### 12.2 残留性・分解性

#### 生分解性

好気性 - 曝露時間 28 d

結果: > 80 % - 易分解性。

(OECD 試験ガイドライン 301D)

#### 化学的酸素要求量

1.47 mg/g

(COD)

備考: (IUCLID)

### 12.3 生体蓄積性

データなし

### 12.4 土壤中の移動性

データなし

### 12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

## 13. 廃棄上の注意

### 13.1 廃棄物処理方法

#### 製品

内容物及び容器は、関連法規及び各自治体の条例等の規制に従い、産業廃棄物として適切に処理すること。

## 14. 輸送上の注意

### 14.1 国連番号

ADR/RID (陸上規制) : 1131 IMDG (海上規制) : 1131 IATA-DGR (航空規制) : 1131

### 14.2 国連輸送名

ADR/RID (陸上規制) : CARBON DISULPHIDE

Cargo Aircraft: Not permitted for transport

Passenger Aircraft: Not permitted for transport

IATA-DGR (航空規制) : Carbon disulphide

IMDG (海上規制) : CARBON DISULPHIDE

## **14.3 輸送危険有害性クラス**

(6.1) (6.1)

ADR/RID (陸上規制) : 3 IMDG (海上規制) : 3 (6.1) IATA-DGR (航空規制) : 3

## **14.4 容器等級**

ADR/RID (陸上規制) : I IMDG (海上規制) : I IATA-DGR (航空規制) : -

## **14.5 環境危険有害性**

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR (航空規制) : 非該当

非該当

## **14.6 特別の安全対策**

なし

## **14.7 混触危険物質**

ゴム, 多様なプラスチック

## **15. 適用法令**

### **15.1 物質または混合物に固有の安全、健康および環境に関する規則/法律**

#### **国内適用法令**

消防法:

第4類:引火性液体, 特殊引火物, 危険等級I

毒物及び劇物取締法:

劇物 - 二硫化炭素

労働安全衛生法

特定化学物質障害予防規則:

非該当

有機溶剤中毒予防規則:

第一種有機溶剤

名称等を表示すべき危険物及び有害物:

法第57条 (施行令第18条) - 二硫化炭素

名称等を通知すべき危険物及び有害物:

法第57条の2 (施行令別表第9) - 二硫化炭素

化学物質排出把握管理促進法:

第1種指定化学物質 - 二硫化炭素

#### **化審法**

優先評価化学物質

## **16. その他の情報**

### **略語と頭字語**

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

IATA: 国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

TWA: 時間加重平均

STEL: 短期暴露限度

LD50: 致死量 50%

LC50: 致死濃度 50%

EC50: 有効濃度 50%

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

## 参考文献

- 【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>
- 【2】化学物質審査規制法（化審法）<https://www.env.go.jp>
- 【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）<https://www.chemicoco.env.go.jp>
- 【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIIP）<https://www.nite.go.jp/>
- 【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>
- 【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>
- 【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>
- 【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト [http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request\\_locale=en](http://www.echemportal.org/echemportal/index?pageID=0&request_locale=en)
- 【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>
- 【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>
- 【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>
- 【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>
- 【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>
- 【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

### 免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。